

令和 8 年度第 2 回
(仮称) 札幌市障がい者スポーツセンターに
関する外部有識者検討会議

会 議 録

日 時：2026 年 7 月 29 日（水）午後 3 時開会
場 所：ORE 札幌ビル 9 階 会議室 3

１．開　　会

○事務局（高橋企画事業課長）　ただいまから令和８年度第２回（仮称）札幌市障がい者スポーツセンターに関する外部有識者検討会議を開催させていただきます。

私は、札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課長の高橋でございます。本日もよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、前回ご出席の委員の皆様に加えて、北海道教育大学札幌校特別支援教育専攻准教授の池田千紗委員にご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、次第２の議事に入りますが、ここからの議事進行につきましては、佐藤会長にお願いいたします。

佐藤会長、どうぞよろしくお願いいたします。

２．議　　事

○佐藤会長　それでは、議事に入ります。

本日は、議題が①から③まで三つ上がっておりますので、それぞれについて進行に沿ってお話ししていただければよろしいでしょうか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長）　それでは、議題①の障がい者スポーツの暫定的な拠点施設（暫定拠点）の開設に向けた検討についてご説明いたします。

議題②も同じく暫定拠点のバリアフリーチェックの結果のご報告となっておりますので、まとめてお話しいたします。

まず、お手元にお配りしているＡ４判横のカラーの資料をご覧ください。

前回の資料に皆様からいただいたご意見を反映する形で作成しておりますので、変更のあったところにポイントを絞ってご説明させていただきます。

まず、スライドの７番をご覧ください。

暫定拠点（現・札幌国際交流館）が入っている複合施設についてです。

こちらのスライドは今回新たに追加をいたしました。そもそも、この暫定拠点となる札幌国際交流館は、複合施設のリフレサッポロという建物の中に入っております。

掲載しております写真のとおり、１階には共用ロビーがあり、そこはオストメイトつきの多目的トイレもございます。駐車場が８５台、正面玄関前には身障者用の駐車場２台分を完備しております。また、同じ敷地内にＪＩＣＡ北海道という施設が併設されており、リフレサッポロの１階と渡り廊下でつながっております。

前回の会議の中で、菅原委員より、売店などがあって、そこで食事を取りながら利用者さん同士が交流できるようなスペースがあると良いとのご意見をいただきましたが、リフレサッポロの占有エリアが限られてしまっているといえますか、敷地がそんなに広くないため、売店も含めてどこまで入れられるか、はっきりと回答し難いところもありました。

そこで、何か活用できる場所はないかということで、併設のＪＩＣＡ北海道に確認をしたところ、令和１０年度から障がいのある方々のためのスポーツ施設になることについては把握しており、ぜひ利用していただけたらというお返事がございました。

ＪＩＣＡさんとしては、車椅子の方や視覚障がいの方といった、いわゆる移動に困難を抱えるような方でも利用してもらいやすいように、例えば、テーブルの高さを考えるということも少し検討していきたいというご回答をいただいております。

私も実際に視察に行きましたが、このリフレサッポロもＪＩＣＡさんも公的施設の中では割と新しいほうで、例えば、渡り廊下に段差があるということもなく、通れるスペースも十分にあったと思いますので、ある程度のバリアフリー化はなされているというふうに捉えております。

続いて、スライドの８番には、国際交流館の館内占有エリアの各諸室の写真を掲載しております。

一番右下にホール控室の写真を追加しておりますが、こちらは、現在、ライラックホールの控室として活用されております。写真にありますとおり、４人がけのテーブルが一つあって、

もう1台ぐらいは入るかと思いますが、大体は8人から10人ぐらいの打合せができるような広さになっております。

こちらにつきましては、相談室（個室）として活用予定ではあるのですが、前回、佐藤会長から、例えば、コンディショニングベッドを置ける医務室のようなものもあったほうがいいのではないかとのご意見をいただきまして、このホール控室をある程度柔軟に活用していければと考えております。

続いて、スライドの9番には、主な検討内容と必要な視点を掲載しております。

主な検討内容には変更はございませんが、検討に必要な視点の一番右下に既存利用者の利用機会の確保ということを掲載しております。

こちらは、前回、札幌市障がい者スポーツ協会の菅田委員からご意見をいただきました。札幌国際交流館には、現在もかなり多くの既存の利用者がいらっしゃいます。また、年間で延べ約4万5千人の一般（個人）利用の実績があると聞いておりますので、こういった現在の一般利用の実績も踏まえて、既存のニーズとのバランスについても検討を行った上で、例えば、優先利用の在り方などについてもしっかりと考えてまいりたいと思っております。

続いて、スライドの10番は施設の課題でございます。

最寄りの地下鉄南郷18丁目駅から施設までの経路が坂道となっており、障がいのある方にとって、通うのに負荷が高く、アクセシビリティに課題がございます。

前回、車両を用いた送迎支援ということで記載をしておりましたが、他都市の障がい者スポーツセンターでは、バスを活用し、10分とか15分に1回、最寄りの駅から送迎支援を行っているところもありました。

そこで、改めて確認をしたのですが、リフレサッポロ自体、駐車場がそこまで広くはなく、バスだと恐らく旋回ができないのと、最寄り駅の近くにバスを停車するときもかなりのスペースを取ってしまうため、難しい可能性が高いことから、これはあくまでもイメージ写真ですが、車椅子をそのまま乗り込ませることができる、いわゆるリフト付きのウェルキャブと言われる福祉車両の導入が必要ということで一旦はまとめております。

検討内容②の専門的なソフト機能につきましては、変更はございません。

最後に、検討内容③の個人向けの利用枠（優先開放・スポーツ教室）の在り方でございます。

資料のレイアウトを少し変えているのですが、まず、大規模形態（年数回）、小規模形態（月複数回）のところは、対応の方向性の意味合いとしては特に変えておりません。

念のため、振り返りますが、SAPPOROスポーツバリアフリーのような、一度に多くの種目を提供し、多くの支援員の方を投入し、自分に合った種目を見つける、始めることを促進する、いわゆる手厚い体制で優先開放を日常的にできると非常にいいと思うのですが、一方で、一度に大量の人材を確保しなければならないこともあり、日常的な実施はやはり困難であると考えております。

そこで、一部の諸室のみを開放する小規模な形態ということで、例えば、こちらの国際交流館には、プールや体育室、それから、ライラックホールという諸室もございますので、日によっては体育室のみを開放するということもあり得ると思いますし、プールが2レーンとライラックホールだけとか、いろいろなパターンが考えられると思っております。

このように、SAPPOROスポーツバリアフリーのようなほぼ全館貸し切りという形ではなく、日によって、ニーズによって、一部の諸室に限定して開放する、あるいは、スポーツ教室を行う、そういった在り方とすることで、取組の日常性を担保してまいりたいと考えております。

それから、右下のところには今回新たに追記をしました。

既存の障がい者スポーツに取り組んでいらっしゃる団体、チームの方々にも、当然、優先開放を行っていくことを考えております。同時に、個人向けにも開催することによって、既存のチームと障がいのある個人の方との交流も促進していけるといいのではないかと考えております。

例えば、体育室の半面を個人向けにボッチャのために開放した日に、もう半面では、ボッチャに取り組んでいる障がい者スポーツの団体やチームの優先開放を行うような在り方を考え

ているところでございます。そうすることによって、障がいのある方が運動やスポーツを始め、続けていく、そして、より活動的に取り組む、こういった一連の流れを後押ししていければと考えております。

最後に、スライドの13番です。

対象者の下のところに「提供種目」と書かれています。こちらにつきましては、前回、パラスポーツ指導者協議会の川島副会長から、日によって、例えば、今日はボッチャにしますとか、今日は車椅子バスケットにしますというように、一定程度、提供種目を指定した上で開放することも検討していいのではないかとというご助言をいただきましたので、その旨を反映しております。

ロードマップ（予定）につきましては、変更がございませんので、説明は割愛いたします。左側に4月バリアフリーチェック受検とありますが、4月17日にバリアフリーチェックを受けておりまして、議題②としておりますが、そのままご説明いたします。

A4判縦の資料をご覧ください。

バリアフリーチェックにつきましては、札幌市保健福祉局で所管している制度となっております。

簡単にお伝えしますと、バリアフリーに関し、建物が関係法令上の幾つもの基準を仮に満たしていたとしても、実際に障がいのある方や高齢の方にとっては利用しにくい施設になっている場合がありますので、障がいのある方や高齢の方、それから、有識者の方に建物内を事前にチェックしてもらい、いろいろなご助言やご指摘をいただいて、利便性を向上していくというものです。

通常ですと、建設前の設計段階から皆様にご意見をいただいているのですけれども、国際交流館につきましては、既に建設されておりますので、実際に建物の中を確認してもらった上でいろいろなご助言やご指摘をいただいたところでございます。

資料に戻りまして、こちらは、繰り返しになりますが、4月17日に受検をしました。チェック実施者ということで、この外部有識者検討会議の委員の中から身体障害者福祉協会の岡崎委員と川島副会長のお二人にも参加いただいてチェックを行っていただきました。

また、札幌市老人クラブ連合会のほか、このバリアフリーチェックは福祉のまちづくり推進会議という附属機関に結果を報告する形になっておりますので、その専門部会であるバリアフリー部会の委員の方々にもご参加をいただき、ご意見をいただいたところでございます。一般の公募委員の方も含まれていたり、建築に関する有識者の方が委員になられていたりというように、いわゆるバリエーションに富んだ委員構成になっていると思っております。

左側には主なご意見、右側には札幌市としての対応の考え方を記載しておりますので、幾つかピックアップしてご説明いたします。

まず、1の階段部分です。

資料の写真を見ていただけますと分かりやすいかと思うのですけれども、各階の階段の手前部分、階段が始まるところに点字ブロックを敷いておらず、視覚障がいの方が階段の存在に気づけない可能性があるというご指摘をいただきましたので、階段部分への敷設を検討してまいりたいと考えております。

続いて、2階から3階の階段における手すりです。

国際交流館は、地下1階から3階までの4階構造になっておりますが、2階から3階まではエレベーターでつながっておりません。3階に上がるには階段を使うしかないのですけれども、写真のとおり、2階から3階につながる階段の手すりが右側にしかついていないため、例えば、片手が不自由な方にとっては昇降時に危険が伴うというご指摘をいただきましたので、札幌市としては手すりの設置を検討してまいりたいと考えております。

続いて、階段をそのまま上がった先の3階のランニングデッキのところです。

右側の写真の赤枠のとおり、階段の開始部分がむき出しになってしまっており、つい、気づけずに足を踏み外してしまうのではないかと、障がいのある方や高齢者だけではなく、ここはやはり危険を伴うのではないかとというご意見をいただきましたので、右側の写真のとおり、縦型の手すりを設置することで、足を踏み外すことのないように安全措置を図ってまいりたいと考えております。

続いて、多目的トイレでございます。地下1階から2階まで、各1か所ずつ設置されておりますが、全ての多目的トイレに共通する意見ということでご指摘をいただきました。

まず、鍵の位置が低く、つまみ部分も一般的なものであり、いわゆる取っ手が長いレバー式のものではないため、非常に回しづらいのではないかとというご意見をいただきましたので、こちらはレバー式のものに変更していきたいと考えております。

構造上、鍵の位置をそのまま上げるのが難しそうでしたので、鍵の位置を変更するのが難しいのであれば、レバー式のものにしたほうが良いと思うというご助言をいただきましたので、そのとおりに対応することでまとめております。

それから、鍵の合わせ位置についてですが、ドアがつり戸になっていますので、仮にレバー式にしたとしても、鍵は触れるけれども、鍵穴にうまく入っていかないということがございましたので、こちらも建具の調整を行い、スムーズに施錠できるように対応してまいりたいと考えております。

もう一点、全ての多目的トイレにユニバーサルシートが設置されておらず、設置できるというのですけれども、多目的トイレ内にユニバーサルシートを設置するだけの十分なスペースがございません。

それを受けて、例えば、可動式の簡易ベッドなどを用意し、換気設備の整っている一般のトイレですと、ある程度のスペースがありますから、一般のトイレなどを活用することでも良いのではないかとというご助言をいただきましたので、そのとおりに対応する旨の回答をしております。

少し飛びまして、6ページ中段から下段にかけましては、3階ランニングコースへのアクセス、エレベーターの関係が書かれております。

繰り返しになりますが、2階から3階にかけてエレベーターがつながっておりませんので、車椅子利用の方については、3階のランニングコースに行けない、利用できないといった課題がございます。一方で、ランニングコースの外周は100メートルと非常に短く、幅も広くないため、実態的には、ランニングコースとは言っているのですけれども、大体は地域の方がウォーキングで使われていることが多いような感じでございます。

車椅子利用の方からのニーズもあまりないのではないかと、ランニングコースをどうやって利用できるようにするかというより、代替案を考えたほうが良いのではないかとというご助言もいただきましたので、2階の体育室の外周をご利用いただくなど、代替案を検討してまいりたいということでまとめております。

次に、5番のその他です。

体育室の前に水飲み器が設置されているのですけれども、一般の方向けなので、高さが高く、車椅子の方だと利用しづらいというご意見をいただいております。

こちらにつきましては、車椅子用の給水器の設置や紙コップの用意、職員による介助など、車椅子利用の方でも利用しやすいような方法を検討しているところでございます。

次のページに移りまして、(5) 身障者用の駐車スペースについてです。

身障者用の駐車スペースが2台しかないため、不足してしまうのではないかとというご意見をいただいております。前回の外部者検討会議でも同じ意見をいただいていたと思うのですけれども、現状ですと、2台とも利用されていることは非常に少なくなっております。

ただ、今後の利用状況を考えますと、障がいのある方の優先利用の日時などにおいては2台だと不足してしまうと思いますので、一時的に身障者用の駐車スペースを増やすような柔軟な対応を考えてまいりたいと思っております。

7月上旬に開催された福祉のまちづくり推進会議でも、本日お配りしております資料をもとにご説明しましたところ、身障者用の駐車場について追加でご意見がございました。

写真のとおり、正面玄関のすぐ目の前にあるのですけれども、ひさしといいますが、小屋根みたいなものがついていまして、雨や雪が降っている日に車椅子の方がお一人で来られた際に、ご自身の車から車椅子を下ろして乗り移る間に濡れてしまうということで、ひさしや小屋根のようなものがつくれないかとご意見が出ておりました。あるいは、何かしらのソフト的な対応ができないかとご意見をいただいております。

現在におきまして、そういった場合につきまして、例えば、職員が傘を差してというよう

なこともございますので、暫定拠点への移行後につきましても同様に、雨や雪の日については、ソフト的な運用ということで、例えば、着いたらお電話をしてもらい、職員が介助をするというような柔軟な対応を考えていきたいと思っております。

こちらはリフレサッポロとの共用施設になっているため、ひさしなど、どこまでつくれるかといった経費の観点もございますが、なかなか言及し難いところもありますことから、まずは最低でもソフト的な対応を行ってまいりたいと考えているところでございます。

バリアフリーチェックの結果については以上となります。

議題③につきましては、SAPPOROスポーツバリアフリーの開催結果になっておりますので、一旦、ここまでで皆様のご意見やご質問をいただけたと思います。

○佐藤会長 それでは、ここまでのところでご意見やご質問などがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○岡崎委員 札幌市身体障害者福祉協会の岡崎でございます。

暫定拠点についての会議がしばらく続いていて、話す内容も、同じことの繰り返しか、新しいものが見つけられないという状況に私も陥っております。

一番最初の資料の13ページの暫定拠点の専門的な運用に関する対応の方向性③では、個人向けの利用枠とか、12ページでは、小規模形態の月に複数回利用、それから、年に数回の優先利用、優先開放という言葉が使われております。

この施設自体、今は暫定拠点という呼び名を使われていなくて、令和10年度からの供用開始に向け、指定管理者選定のための仕様書をそれまでにつくられていくのだろーと思っております。

施設の開放の仕方、個人向けの利用について、暫定拠点とするならば、利用率に関しても、少なくとも50%は障がい者の団体や個人に優先利用してもらおうとか、そういったところが会議の中で言葉として出てきていないように思うのです。

前回会議の議事録を確認したところ、予算ありきの説明でした。今は利用料を取っているのです、そこそこの売上げや入館料が上がっていると思います。それから、障がい者の暫定拠点というのであれば、障がい者枠についても半分以上は取っていただくということなのかなと、いろいろな書類を見返して思うようになりました。

そういった思いが湧いてまいりましたので、その辺についてお話しできるような内容があればお聞かせ願いたいと思います。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 岡崎委員がおっしゃられますとおり、我々札幌市としても、具体的な数値などを用いて定量的な観点から議論ができればと思っております。

その上で、具体的にこの数値が一番望ましいとか、こうあるべきということで、経費の観点、あるいはニーズ量の精査が難しいこともあり、現時点ではまだはっきりと整理し切れていないところです。

一方で、岡崎委員がおっしゃられている考え方については本当によく分かります。優先利用というのであれば、利用率50%以上というふうに考えられる方は決して少なくないと思いますので、いただいたご意見も踏まえて、運営にどのくらいの経費がかかるのかを試算するとともに、本市の内部でも検討してまいりたいと思っております。

利用率が何%以上になるのか、いつまでにお示ししますというのは今の時点では回答しづらいのですが、いただいたご意見につきましては、しっかりと受け止めて、今後の検討に生かしてまいりたいと考えております。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

今の利用のところに関連して、バリアフリーチェックの中では券売機は使わないであろう想定になっているのですが、そうはいつても、数をカウントしなければいけないので、受付なり何がしの対応が必要になると思うのです。券売機は使わないけれども、数をちゃんと集約するというようなシステムというか、別の方策はなければいけないと思うのですが、その辺で何か案はあるでしょうか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 具体的などころまではまだ詰め切れていないのですが、佐藤会長がおっしゃられますとおり、実績はやっぱり押さえていかなければなりませんので、何かしらの方法は取って、仕組みをしいて、延べ利用実績を必ず追えるようにしてまいりたいと思っております。

まだ漠然とはしておりますけれども、例えば、日ごとだけではなく、日時といいますか、時間帯なども追っていくことになるのではないかと考えておりますし、そこでニーズの傾向も精査をする必要があると思います。

蛇足になるかもしれませんが、ここは、あくまでも（仮称）障がい者スポーツセンターの暫定的な拠点施設でございまして、基本構想にもはっきりと記載をさせていただいておりますが、ここの暫定拠点での取組を通して、今後の（仮称）障がい者スポーツセンターの整備に向けたニーズ量や、施設規模として具体的にどういう機能が考えられるのか、そういった検討を行っていく上での実証実験ではないですけれども、そういった場所ですので、データは集めるようにしたいと考えております。

○佐藤会長 実績を出さなければいけないという大事なミッションなので、ぜひ引き続きよろしくをお願いします。

ほかにご意見やご質問はいかがでしょうか。

○岡崎委員 話が違うほうに行ってしまったので、先ほどの続きですが、暫定拠点の指定管理者の選定に当たり、実際に仕様書がつくられると思います。指定管理者についても年明けにはすぐに募集を開始すると思います。

確認ですが、先ほどの暫定拠点としての割合や運営の仕方も含めて、仕様書はいつぐらいの時期に完成してどのようになるのか、教えていただければと思います。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 岡崎委員に確認ですが、仕様書が完全に完成し、対外に公表する時期というイメージでよろしいですか。

○岡崎委員 そうです。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 指定管理者の公募開始ということで、まだはっきりとは精査し切れていないのですが、現時点では1月から2月頃を想定しているところでございます。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

もう一点、追加になったレストランについてですけれども、1階の渡り廊下から1階フロアのレストランに直接行けるといようなイメージですね。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） おっしゃるとおりです。

○佐藤会長 レストランのキャバについての情報がないのですが、例えば、車椅子の方だったら何人ぐらい使えるとか、そのイメージもできれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 正式な数字は押さえていなかったのですが、写真のとおり、4人がけのテーブルが6卓から7卓ぐらいあると思います。写真で見るよりもさらに広がっておりまして、通路のスペースもありますので、一般的な食堂よりもキャパシティはあると思います。

○佐藤会長 現状での営業時間は何時から何時までですか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） ランチタイムの昼12時前後とディナータイムの夕方18時前後で営業していると聞いております。

○佐藤会長 今は夕方もやられているんですね。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） はい。

○佐藤会長 分かりました。

ほかにいかがでしょうか。

○川島副会長 まだ決まっていないことをまた聞いてしまうと思うのですが、現時点で結構ですけれども、実際の対応スタッフの在り方についてです。これも事業の回数や頻度によって大きく変わってくるのはもちろん承知しておりますけれども、専門職の常勤者を置くのか、それとも、スポット的な人を配置していくのか、ざっくりとした今のお考えがあれば教えていただきたいと思います。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 常勤で置くのが望ましいと思いますけれども、優先利用の開放の在り方、回数、また、日によって開放する時間も変わってくる可能性がございますので、そういったところをどこまで条件づけるかということと関連してくると思っております。現時点では、必ず常勤でなければならないとか、非常勤を何人置きなさいとか、

はっきりとはお示しし難い状況です。

ただ、一般論になってしまいますけれども、障がいのある方の優先利用日時ではなかったとしても、障がいのある方が相談したくて来られることはあるかと思いますので、望ましい在り方としては、やはり常勤であると理解しているところでございます。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○深宮委員 札幌市手をつなぐ育成会の深宮です。

スポーツの質問ではないのですが、先ほどの食堂とか食べ物などが買える場所があったらいいなというところで、私たち育成会では、元気ショップ「いこ〜る」という福祉のアンテナショップをやっていて、出張販売もやっているので、何かそういう形でご協力できればと思っているので、もし可能でしたらお声かけください。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） ぜひ検討させていただきたいと思います。

元気ショップさんには、我々のやっているパラスポーツの体験イベントにも出店していただいておりますので、暫定拠点も含めて、引き続き、ご尽力いただけたところがあればお願いをしていきたいと思っております。

○佐藤会長 ピークタイムにはパンなどもあったらなと思っておりました。

ほかにいかがでしょうか。

○菅原委員 札幌市パラスポーツ指導者協議会の菅原です。

検討内容①の交通アクセスの話で、今回、写真がアップグレードされましたという説明がありましたが、前回もお話しさせていただいたように、ニーズの高いときだけ送迎でいいのかというところが解消されているのか、検討がこれからなのかというところが一つ気になっていいます。

また、ウェルキャブを導入するよりも、例えば、タクシー会社と提携するとか、ニーズの高いときだけ導入するのではなく、いつでも誰でも使える仕組みがもう少し検討されていくといいのではないかと思います。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 資料の表記がやや抽象的だったと思うのですが、**「特にニーズの高い時」**と記載しているのは、ニーズの高いときにしかやりませんということで設定しているわけではなく、特に求められるのは障がいのある方の優先利用日時的时候ではないかということでございます。

手法として、福祉車両と記載をしておりますけれども、おっしゃられるとおり、福祉車両の運行の仕方といいますか、導入の仕方についても、自前で用意する方法もあれば、例えば、今お話しされていたようなタクシーを使うといった方法もあると思いますので、そのあたりは柔軟に考えていきたいと思えます。人数次第かなと思います。自前で購入して運転していくより、むしろ、専門の業者をお願いをするというののも在り方としては十分に考えられると思っております。

いつのタイミングで確定できるか、何とも言えないところではあるのですが、今いただいたご意見も踏まえ、検討の幅も広がったとも思いますので、しっかりと考えてまいりたいと思えます。

○菅原委員 追加でいいですか。

一般のタクシーでも、私たちが遠征で車椅子の人を何十人にも連れていくときは、クラウンタイプではなく、ジャパントクシーだと車椅子の人もそのまま使えるので、タクシー乗り場で、すみません、1台飛ばして次の車に乗せてくださいという形でジャパントクシーだけを選んで使うこともあるので、介護タクシー会社ではなくても、手軽にまちともう少し連携していけることがあるのではないかと思います。

○佐藤会長 ちなみに、ジャパントクシーはFFですけれども、雪道ではどうなのか、聞いたことはありますか。

○菅原委員 稚内ではカーリングの遠征で使ったことがあるのですが、冬ではなかったので、冬はどうしているかというのは聞いたことがないです。

○佐藤会長 ちょっと気になっていまして、ちまたでも走っていますし、うちの外来患者さんもよく使うと言うのですが、冬場は大丈夫なのかなと心配だったので、その辺も併せて情報があればお願いします。

○菅原委員 話が少しずれてしまうのですが、私が経営している事業所でも後ろにスロープがついている車を使っているのです。スロープがつくと四駆にできないということで、FFです。年に2回ぐらい埋まりますけれども、基本的には、もう4年、5年はその車で営業しております。

○佐藤会長 貴重な情報をありがとうございます。

議題②と②に関して、ほかにいかがでしょうか。

○池田委員 教育大の池田です。

トイレとシャワーについて伺います。

私は見学にも行けなかったもので、分からないところがあるのですが、これは性別が男性と女性に分かれているものだけですか、それとも、誰でもシャワーみたいなものが用意されているのですか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 多目的トイレですか。

○池田委員 多目的トイレはどなたでも使えると思うのですが、シャワーはどうなっているのですか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） シャワーは、多目的更衣室の中についております。

○池田委員 どの性別でも使える形になっているのですね。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） おっしゃるとおりです。

○池田委員 それから、先ほどのレストランの話で、ランチとディナータイムだけで、カフェタイムは営業を終了しましたとホームページにあったと思うのですが、そういうタイムにこそ、ちょっとしたものがあつたほうがいいと思うのです。ちょっと休んで、また運動をしに行ったり、学生さんと、待ち時間は待合スペースで勉強をして、時間になったら行くみたいな体育館の使い方をしていると思うので、その隙間のところにもう一つ何かが必要なのかなと思いました。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） そもそも、暫定拠点が開設されたときにどういう営業時間帯になっているかというのは、何とも言えないところではあるのですが、今の池田委員のご意見の趣旨は、時間を問わず、いつでもというのが一番いいのではないかということかと思います。そういう意味では、前回、菅原委員からいただいた売店というご意見の趣旨も同じではないかと思っております。

まず、交流できる場所としましては、共用のロビーを使っていただくこともできます。後ほど、次の議題③でもお話をいたしますが、SAPPOROスポーツバリアフリーを6月7日に国際交流館で開催させていただいたときも、会場の一つとして共用ロビーも使っております。共用ロビーのソファのところで休憩をして、体験種目にまた取り組んでという方もいらっしゃいましたので、交流できる場所、休憩できるような場所は確保されていると思っております。

何かお食事を取れるような機能につきましては、先ほど、深宮委員からもありましたけれども、例えば、それが毎日出せるかどうかはまだ何とも言えないですけれども、その隙間を埋めるような手だてがないか、検討してまいりたいと思います。

○佐藤会長 ありがとうございます。

では、議題①と②についてほかに何かあれば、最後にもう一回お伺いすることとして、議題③のご説明をよろしいでしょうか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） それでは、議題③のSAPPOROスポーツバリアフリーの開催結果について、A4判横カラーの資料を用いてご説明いたします。

皆様のお知恵やご協力をいただき、昨年12月に初めて開催いたしました。今回も、佐藤会長には、理学療法士を派遣していただいたり、川島副会長には体験種目のコーディネーターを考えていただいたり、菅田委員や岡崎委員をはじめ、深宮委員や森委員にも周知のお手伝いをしていただいたり、近藤委員にはボランティア養成講習会の講師を担っていただいたり、菅原委員には、パラスポーツ指導者協議会からたくさんの支援者を派遣していただきました。本当にどうもありがとうございました。

まず、SAPPOROスポーツバリアフリーの目的と特色につきましては、もう言わずもがなかと思いますので、割愛いたします。

開催の概要ですが、5月30日土曜日に西区体育館、6月7日に国際交流館で開催いたしました。

体験種目ですが、西区体育館は施設が広いので、10種目以上を提供することができたのですが、国際交流館は広さに限りがありますので、10種目未満となっております。

前回の開催を踏まえて整理した目的別の課題と今回の改善策ということで、主なものを列挙しております。目的別に見て、課題と改善策を整理させていただきました。

まず、1点目ですが、障がいのある方の運動やスポーツへの取組を促進する観点から、今回のSAPPOROスポーツバリアフリーという新たな取組の中で、専門人材による相談対応というものを提供し、非常に好評をいただいたところですけれども、実際に勧められた種目を体験したのかどうかといったところを追跡、把握する仕組みが不足しておりました。

そこで、相談対応の効果検証を行うために、アンケートに追跡項目を設けてデータを蓄積するとともに、相談対応者である理学療法士の方が記入するアセスメントシート、こちらは相談シートという名目で出ささせていただきましたが、このアセスメントシートを新設し、まずは相談対応でこのアセスメントシートを理学療法士の方が記入し、体の状態像を見える化し、そのシートを参加者がそのまま持って体験ブースに行き、パラスポーツ指導員の方にお渡しすることで情報を共有しました。

このアセスメントシートは、佐藤会長にご相談をし、たたき台といいますか、1から10まで全部作成していただいて、まずは試験運転をさせていただきました。どうもありがとうございました。

2点目の支える人材の育成ですが、まずは支える人材の裾野を拡大していきましょう、ボランティアの育成を図っていきましょうということで、多くのボランティアを導入いただきました。今回も、5月30日のほうには教育大から数名の学生を池田委員を介して派遣していただき、道具も貸していただきました。

前回もお話したのですが、ボランティアの中でも力量差みたいなものはやはりあって、教育大の学生であれば、経験値も結構あって、スムーズに取り組んでいるのですが、そのほかのボランティアの中には、障がい特性への配慮やご自身の役割に戸惑うような方々もいらっしゃいました。

これは一回ですぐに改善が図れる内容ではないと思うのですが、まずは、理念に関する座学の講習に加えて、実際の体験種目をを用いた実地解説などを実施していきましょうということで、今回、対応をさせていただいたところでございます。

説明が後回しになってしまいましたけれども、初めて従事されるボランティアにつきましては、このSAPPOROスポーツバリアフリーが12時から開始されますので、その日の午前中に行政の講習会を開催いたしました。今回につきましても、川島副会長と近藤委員に座学の講師をお願いし、対応していただいたところでございます。

実際の研修の様子などについて、イメージがなかなか伝わりづらいところもあると思いますので、川島副会長と近藤委員から、当日の状況について簡単にお話しいただけますでしょうか。

○川島副会長 ボランティア研修は、SAPPOROスポーツバリアフリー当日の午前中を使って行っております。これまで、昨年12月と今年5月の2回実施しております。

対象者は、SAPPOROスポーツバリアフリーに初めて参加されるボランティアの方々です。

主な狙いとしては、障がいに対する正しい知識や理解を深めてもらうことと、障がいのある方が安心してSAPPOROスポーツバリアフリーの体験種目に参加していただけるための人材を育成したいという思いでやっております。

講義の内容ですが、まず、私から、障がいのある方の概況や各障がいの特性、そして、接遇、合理的配慮の提供や、障がいを理由とした不当な差別の取扱いの事例などをお話ししております。続いて、近藤委員から、パラスポーツとは何か、ボランティアとしての心構え、そして、障がいのある方に対する安全管理の重要性などをお話しさせていただいております。

2回とも20名前後の方に参加していただきましたけれども、非常に熱心に聞いていただい

て、質問も数多く出ておりましたので、皆さんには届いたのかなと我々は思っております。

では、近藤委員、補足があればお願いいたします。

○近藤委員 内容については、今、川島副会長からお話いただきました。

種目というか、体験する競技の理解については、初めての方にとっては難しいところもありますので、そんなところにも少し触れながら概況をお伝えしたり、まだ十分に実施できていないのですが、その後の実際のサポートの在り方についても実地の形で理解を深めていくことがすごく重要なと感じながらお伝えさせていただいております。

また、やる気のあるボランティアがたくさんいらっしゃるのですが、実際の体験ブースでの指導者からのレクチャーや、そういった関係の中でより深まっていったり、ちょっと離れてしまうという状況が起こることはあり得ると思われました。ボランティアを支え、育てていただくような研修とともに、指導者の力量も一定程度担保していく仕組みを相互に深めていかなければいけないと思いますし、この研修をやらせていただきながら捉えていたところです。今後は、そういった方策も含めて進めていただければと思っております。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 川島副会長、近藤委員、どうもありがとうございます。

今の改善策も踏まえて、参加者の実績を掲載しております。

こちらは、参加された方、それから、同伴された介助者の方のどちらかに、当日、入場してすぐに受付シートを記載していただきますので、その受付シートに基づく集計結果となっております。5月が26名、6月が24名となっております、こちらは介助者の人数を含まない障がい当事者の人数です。

向かって左側が5月の実績、右側が6月の実績で、それぞれ円グラフを載せておりますけれども、身体障がいと知的障がいのある方が大半でございました。

一方で、精神障がいの方も1割以上いらっしゃったのと、5月のほうには紫色で表示しておりますけれども、重複障がいということで、この中には精神障がいを持った方も数名含まれておりました。

重複障がいにつきましては、3障がい全てという方はいらっしゃらなかったのですが、残る全ての組合せ、身体と知的、知的と精神、精神と身体といったパターンが含まれておりました。

今回は、前回の外部有識者検討会議でのご意見も踏まえ、知的や精神の方の感覚過敏や混雑に配慮し、カームダウンルームと呼ばれる落ち着ける休憩スペース、個室をご用意させていただいたところ、実際の利用実績もございましたので、こういったソフト面の工夫も継続していきたいと考えております。

続いて、年代別の内訳でございます。

全体の約6割が40代以上となっております、5月と6月のどちらも12歳以下の学齢児は若干名となっております。

5月30日に開催したほうは小学校の運動会と重なっていたのと、6月7日は日曜日になっておりましたので、児童デイサービスなどがお休みのところが多いと聞いておりますので、前回開催時に見られた児童デイサービス事業所などの団体利用がなかったことにより、12歳以下の学齢児が若干名となっているのかなと思っております。参考までに、前回の令和7年12月のときには、参加者の半数が18歳以下の知的障がいのお子さんでございました。

続きまして、居住地別内訳でございます。

5月と6月のどちらも白石区在住の方が最多となっております。6月のほうは、国際交流館が白石区にございますので、傾向としてはよく分かるのですが、5月のほうは西区体育館で、最寄り駅も地下鉄宮の沢駅となっておりますので、白石区からはかなり離れていますが、どちらも白石区の方が最多となっております。

考えられる要因としまして、日程が5月30日と6月7日と近かったこともあって、今回は同じ1枚のチラシで広報、周知をさせていただいたため、どちらの日程にするかが選びやすかったところがあるのと、白石区は地下鉄東西線の沿線を中心とした区ということもあって、西区宮の沢開催の場合でも東西線での直線的な移動となりますので、もしかしたら足を延ばしやすかったのではないかと考えております。

続いて、情報の入手経路でございます。

こちらは、前回開催時と同じように、チラシが約半数となっております。日常的に通っている施設や医療機関からチラシをいただいたり、ご友人や知人の勧めといった、いわゆる受動的な情報接触を信頼して参加されている方が多いかと思います。

一方で、友人、知人の方が何を見てこのイベントを知ったのかまでは追えていないのですが、SNSを見て来たという方もおりますので、一定程度、紙媒体もそうですけれども、デジタル媒体での広報や周知も多少なりとも効果が出ていると思っております。引き続き、クロスメディアと呼ばれる複数の広報媒体を活用して広報、周知をかけていくことが望ましいと考えております。

続いて、参加者へのアンケート結果でございます。

アンケートの項目数が幾つかありましたので、主なものを抜粋しております。

まず、1点目が満足度の理由です。

今回もほとんどの方がこのイベントに関してはすごくよかったと回答をしていただいております。この高い満足度の理由ですけれども、体験できる種目の数が多かった、要するに、選べるということです。バリエーションが非常に豊富だったところがあると思っております。それから、自分に合った種目があった、専門的なアドバイスが役立った、サポートスタッフがいた、こういったものが多くなっております。

やはり、相談デスクでのアセスメントによって、一人一人の体の状態に合った種目をお勧めし、そこに確実に誘導でき、また、理学療法士が作成してくださったアセスメントシートを見て、パラスポーツの指導員の皆様もいろいろなアドバイスをすることができたと思っております。

次に、相談対応の効果でございます。

相談デスクを利用しましたかというご質問に対しては、約6割の方が利用しましたと書いておりますが、実際にはもっと多くの方が使っていたと思います。未回答の方もいらっしゃると思いますが、この方々も使っていたかと思っておりますので、実際には、恐らく8割、9割の方が相談デスクを利用していたと思います。

勧められた種目については、ほとんどの方が体験しており、そこで勧められた種目を実際にやってみて合っていると感じましたかという質問には、大半の方が、とても合っている、または、ある程度合っていると回答をされておりましたので、やはり、個別サポートの有効性は間違いなくあると考えております。

補足ですが、右側の6月7日のほうですけれども、実際に書いてもらったアンケートをそのまま集計して載せております。例えば、質問の二つ目の実際に体験したのところでは13人しか回答していないのですが、その下の種目は自分に合っていると感じましたかのところでは16人になっており、不一致があるのですけれども、そのまま掲載をさせていただいております。

これらの実績も踏まえ、このイベントの目的別に見た現状と、改善点といいますか、さらによくすることができる場所があるのではないかとということで整理をしております。

1点目がアセスメントシートの更新でございます。

繰り返しになりますが、非常に有用性のあるツールだったと感じております。

今回は、主に体の機能に特化して作成いただきましたので、今後は、認知や心理といった面も含めて多角的に把握できるような項目に少し拡張していくことを検討してみてもいいのではないかと考えております。また、現場での記述負担の軽減についても、何か考えられる余地があるのであれば、検討してみてもいいのではないかと考えております。

ここで、アセスメントシートを映させていただきます。

お手元にはお配りしておりませんが、皆様にはイベントが開催される前に関係資料一式ということでデータで共有をさせていただいたものとなっております。

こちらが今回活用させていただいた相談シートでございます。

柔軟性や筋力、麻痺、機能障がい、こういったものを記載していただき、最後に、興味のあるスポーツ、推奨スポーツ、こういったものを掲載して、チェックをして、ご本人にもきちんとお渡ししてあげるというものになっております。

2点目は、資源マップの試作になります。

継続的に運動に取り組んでいけるようにするために、分かりやすい情報提供の仕方が必要ではないかと考えております。

実際に、私もSAPPROスポーツバリアフリーの受付で対応していった際に、こういうスポーツ教室はないのですかとか、相談の中で資源について聞いてくる方もいらっしゃいました。そのときに感じたこととして、今はいろいろなところに多くの情報がありますので、どの情報をどの程度までといったところはこの後の検討かなと思っているのですが、例えば、地域で障がい者スポーツに取り組む団体や障がい者向けのスポーツ教室などの情報を見える化した資源マップを一度整理して、試作をしてみてもいいのではないかと考えております。

それを対象の方にそのままお渡しするのか、それとも、相談者が持っていて、すぐに検索できるようにしておくなど、いろいろな使い方が考えられると思いますので、使い方も踏まえて少し検討してもいいのではないかと考えております。

続いて、効果検証のための調査でございます。

実際に参加された方が、その後、継続的な運動などにつながっているのかどうかを把握する仕組みがございませんので、参加された皆様のご協力ありきというところではあるのですが、追跡アンケートを行って、その後の状況を調査してみてもいいのではないかと考えております。

最後に、目的の二つ目として、支える人材の育成です。

こちらは、昨年度のSAPPROスポーツバリアフリーが終わった後の皆様との意見交換で整理した内容と同じですが、段階別の研修プログラムやマニュアルの整備など、育成を行っていく上での体系化を図っていてもいいのではないかと考えております。

これらの改善を図っていくことで、例えば、相談対応における補助ツールやボランティアの育成体系などを整理し、暫定拠点での専門的な取組の内容として、相談対応やボランティアの育成を図っていくというふうにしておりますので、暫定拠点での取組に活用していくというような流れを取っていったほうがいいのではないかと考えております。

これまでのSAPPROスポーツバリアフリーでは、理学療法士の皆様に相談対応を行っていただいているのですが、暫定拠点開設後は、当然、パラスポーツの指導員資格者の方が相談対応をしたりということも考えられると思いますし、もしかしたら、ほかの医療職の方が相談対応をされる場面もなくはないと考えております。

ですから、対応にそこまでばらつきが出ないように、一人一人の状態像もやはり違いますので、みんな同じような相談対応の在り方にはできないと思うのですが、最低限、対象者のこういう情報は押さえておいたほうがいいというような、いわゆる見える化をして、一定程度、相談対応における標準化を図っていったほうがいいと考えております。令和10年4月の開設ですので、そこまでにいろいろと試行錯誤を繰り返して暫定拠点に反映していきたいと考えているところでございます。

最後に、今年度の開催スケジュールにつきましては、さきに皆様にご周知させていただいているとおり、9月と11月に西区体育館温水プールで開催させていただく予定となっております。

以上です。

○佐藤会長 ありがとうございます。

議題③に関して、ご質問などがあればお願いします。

○盛委員 札家連の盛です。

たくさんのご報告をありがとうございました。

まず、スライドの4ページの今回の改善策の支える人材の育成、ボランティアの対応力のところで、抽出した課題に対し、改善策として、体験会を行う前に座学等を行ったことに関しては、非常にいい試みだなと考えております。やはり、ボランティアもそうですし、こういうものを運用していく上での本当に大事な下地づくりになると思います。

質問ですが、当日、体験会に参加したボランティアからの感想や質問に対するフィードバックの体制はどうなっているのか、お伺いしたいです。

それから、余談ですが、ご説明の後半で出てきた資源についてです。私は別の立場で

相談員もやっているのですが、やはり、ご質問でもあるのです。精神障がいの方とか、ほかの障がいの方でも、どこかに同じような、当事者のところでやっているサークルはないのかということがあるのです。

ですから、札幌市のほうで、そういう資源マップのようなものをいろいろなところと連携してつくっていただけると、興味を持たれる方は多いと思いますので、ぜひお願いできたらというふうに思っております。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） ご質問とご意見をありがとうございます。

人材育成のところで、ボランティアへのフィードバックにつきましては、終わった後にフィードバックをしてフォローができればと思うのですが、今回はそこまでできませんでしたので、次回以降、パラスポーツ指導員の皆様にもご協力をいただく形になりますので、どこまで対応できるか、いろいろとご相談をしながら検討していきたいと思います。

○佐藤会長 私は5月にスタッフとして関わったのですが、途中でボランティアのところを回って、アセスメントシートを見ながら、どうですか、どんな感じですかという感じでいろいろと意見を聞いたのです。

前回の12月に比べると、今回は少し情報共有がしやすかったようで、書面を替えたのもあるのですけれども、そこはよかったようで、僕らもあまり専門的なところばかりだと分からないので、共有できる言葉で分かりやすいような書面になるよう、今回は工夫をして直させてもらったのですけれども、そこは確かに割と好評でした。

それから、それぞれの現場で障がい状況に合わせて少しずつモディファイしていくことが今回は少しできたのです。コーンが置いてあって、本当は走り用だったけれども、スラロームに変えてしまえみたいな感じで車椅子のスラロームに変えたり、今回はそこを臨機応変に対応できたのもよかったと思っています。

やった後のフィードバックも大事ですけれども、やっている途中にちょこちょこ変えていくほうがもしかしたら早いかなというのが個人的な感想でした。

ほかにいかがでしょうか。

○菅原委員 銭谷係長のご説明で、アンケート結果のところでは未回答の方がいるというお話があったのですけれども、たしか、昨年度の開催のときに、アンケートを取るなら、アンケートは全員が必ず紙に書けるわけではないのだから、QRコードも用意するとか、手が不自由な人は聞き取りでこちらが書いてあげるといった配慮が必要ではないかという話が今年のこの会議でもあったと思います。

私は、今回、2日とも、ただの一般客として障がい者を連れて行ったのですけれども、介助者というわけではなく、本当に遠くで見ていたのです。そうしたら、手が不自由だったのですけれども、アンケートは記載してもらえませんでした。ですから、私が連れていった人は空白で出していることになっているのですけれども、ちょうど帰る時間がイベント終わりの時間だったため、受付であろう場所がジュースを配らなければいけなくて忙しそうだったのです。スタンプを集めたらもらえるジュースをイベント終わりにもらうのにみんな並んでいて、行列だったのです。あそこでどこまでアンケートをチェックしてお声がけができていたのかというところも含めて、ソフト面への配慮でももう少し正確なアンケートを集めることができたのではないかと気がになりました。

意見です。

○佐藤会長 事務局からお願いします。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 菅原委員のおっしゃるとおりかと思います。

前回は130名の方が来て、今回は団体利用者もいらっしやらなかったことを考えるのであれば、書きたくないです、用事があるのですぐに帰りますという方はやむを得ないと思うのですが、実態として今お話しいただいたような例があったのであれば、これは絶対に改善しなければならないと思いますので、運営をしているスポーツ協会にもご相談をさせていただいて、アンケート、受付シートへの記入といいますか、支援体制について検討し、改善してまいりたいと考えています。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○菅田委員 障がい者スポーツ協会の菅田でございます。

資源マップの作成には私も大賛成です。我々の協会のほうにも、このスポーツをやるにはどこに行けばいいのか、どこの地域でどんなスポーツをやっているのか、こういう問合せが非常に多くあります。

これを一元化していただけるよう、当然、我々も絶対に協力はしますけれども、これをつくるのであれば、我々のほうでやる事務の話もあるし、市民の皆さんの選択ということもあるので、もっと前からやればよかったのかなと思っております。

ぜひ大成功してほしいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 資源マップをつくることによって、情報提供といった観点もそうですけれども、もう一つの効果としては、どういった資源が不足しているかが見えてくると思っております。その不足している資源を暫定拠点開設のときに全部そろえられるかという、そうではないのですけれども、暫定拠点を開設したとしても、課題はある程度残ってくると思いますので、中長期に捉えて、将来的にはこういった資源が必要というような整理も併せてできるのではないかなと思っております。

○佐藤会長 エントリー制の資源マップだと、なかなか全部は集まらないので、実はこういうところもあったよというものもうまく拾えるように、そこの方策も併せて考えながらやっていってもらえたらありがたいと思います。

引き続き、よろしくお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○川島副会長 資源マップの話です。

もちろん必要ですけれども、いいものをつくろうとしたら、かなりの時間がかかるし、これからはいろいろなところに聞きながらということで大変だと思うので、まずは9月12日に何か配りませんかというご提案です。

今ある情報だけでも、サークル団体が市と道にもありますし、みなみの杜の開放だったり、スポーツ協会がやっているスポーツ教室だったり、分かっているだけでもかなりのものがあると思うのですが、それがまとまったものが今はないのです。ですから、ぜひ9月12日に配ればよいなという希望です。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 私も同じ考えで、まず、いきなり精度の高いものをつくろうと思うと結構難しいと思っていて、徐々にブラッシュアップさせていかなければいけないと思っています。

ですから、ちょっと消極的な姿勢に見えたかもしれないですけれども、試作ということで書かせていただいております。まず、第1弾は、ここにいらっしゃる皆様のお知恵や情報を集めて、この場で把握できているような情報を集めて一枚にして、使ってみて、こういう情報も追加したほうがいいのかというようなディスカッションを通して徐々にブラッシュアップしていけたらと思っております。

○川島副会長 すみません、先ほど一緒に言えばよかったのですが、非常にまとまったこのシートですけれども、前回の12月に、人数が多い、少ないという問題はありますけれども、130名が来たという実績があるのに、そのときと何が違って人数に差が出たのかがこれを見るだけでは分からないのです。

せっかくですので、比較対象としてこういうシートにまとめておいたほうが、後々、分かりやすいと思いました。取りあえず、これは年度でまとめているのかもしれませんけれども、できれば比較できるようなものをつくっておいたほうがいいのかというご提案です。

○佐藤会長 6月はすずらんピックの陸上ともかぶっていたので、その辺も大きかったかと改めて思います。そこも含めて、取りまとめの仕方も検討していただければと思います。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 確かに、今回は人数が減ったのですけれども、このSAPOROスポーツバリアフリーは今回で3回目の開催ということもあって、人数の変動について正確に分析するのはまだ難しいと考えておまして、9月や11月のものも通してどういった傾向があったのかを整理できればと思っております。

今までと明らかに違うところとしましては、5月30日と6月7日という近い日程で2回開催させていただいたこととございます。この狙いとしては、分散化がありました。前回は、130名、介助者は190名の方が来られました。特に、国際交流館は西区体育館の半分以下の

大きさということもあって、同じだけの人数規模で来られると、どうしても混乱してしまうところもあり、結局は参加者にご迷惑をかける可能性がありましたので、分散をして近い日で2回開催させていただきました。これも要因の一つとして考えられるかと思います。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○近藤委員 北海道医療大学の近藤です。

先ほどの資源マップとも重なりますけれども、実は、5月30日のときに、私のほうで情報を少しまとめてQRコードにしたものを持っていきました。札幌市や北海道でもチームをまとめているページがあるので、そこですとか、各協会のホームページに飛べるQRコードをつくって、持っていけるようにさせていただきました。

やはり、情報がない方が結構いらっしゃっていて、何か情報はないですかということで、それを渡しながらかしらせもできましたので、効果はあると思います。本当に簡単なものですし、既存のものを活用する形からのスタートでいいと思いましたので、そういったことをいたしました。

ちなみに、すずらんピックでも私はフライングディスクを担当していたのですが、大会があること自体もやはり情報がないので、すずらんピックのホームページを見たらありますよとお伝えしたのです。そういったことで大会にもつながれますし、段階的に進んでいくと思いますので、そういったものは重要になってくると思っております。

あわせて、これはパラスポーツ指導員の立場としてですけれども、指導員もどういうふうに通導をしていいのかが分からなかったりして、自分が担当している競技のほかにも似たような競技でこういったものがあるのかというところも簡単な表のようなものをつくって指導員に渡しました。

そうすることによって、同じような動きをする種目、例えば、これをやってみてできたのだから、ほかの種目にもぜひ挑戦してみたらというように、体験の幅を広げる材料になるのかなと思って、5月のときには準備をしてみました。

それももう少し精査をして、市と一緒に指導者協会のほうでできたらいいのかなと思いますし、そういった形で情報をまとめていくことができたかと考えておりますので、ぜひお願いできればと思います。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○愛下委員 札幌市スポーツ協会の愛下です。よろしくお願いいたします。

先ほどから、パラスポーツの資源マップのお話がいろいろと出ていると思うのですが、私も、私どもの協会でも、あまり大々的には公開していないのですが、障がい者スポーツに関するホームページを4月からつくっております。ただ、まだ準備中のものが多く、大々的には公開できていないので、今からでも皆さんに情報をいただいて、大々的に公開できるようにしていきたいと思っています。皆さんの情報をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○池田委員 うちの学生がボランティアなどで参加させていただいていて、今度は西区体育館でやるということでお声かけをいただいているところですが、今後、リフレサッポロでやっていくときに運動遊びみたいなものはどういう方向性になるのでしょうか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 次回、リフレサッポロでいつやれるか、やるかというのがまだはっきりと固まっておりませんので、確定的なことは言い難いのですが、運動遊びもかなり多くの方々にご利用されていて、人数は間違いなくあると思っております。

今回は、2週連続でやったこともあって、より広大なスペースを提供できる西区体育館を選ばせていただいたのですが、今後、またリフレサッポロで開催させていただくことがあれば、運動遊びの提供についても併せて検討していきたいと思っています。

○池田委員 前回は、教育大にあるものを持ってきたりして、学生もいろいろと考えてやる形にしたのですが、毎回、貸出しが難しいこともあって、今年度は札幌市にあるものでやっていただきたいと思います。

学生ボランティアの感想を聞いていくと、ちょっと物足りなさを感じているようでした。マニュアルもあつたり、段階的にというところとの兼ね合いが難しい部分ではあると思うのです。

けれども、先ほど会長もおっしゃっていたように、その場でつくり変えていたり、そのときに参加している方に合わせていろいろと流動的にできる部分というか、自由度があると、ボランティアとしてもいいのかなというところがあります。

すごく抽象的な話になるのですが、ボランティアを支える人材とここにも書かれていますけれども、うちの学生は、支えるというよりも、一緒にやるというか、一緒に楽しむというふうにすごく思っている学生が多いので、そことのずれもあって、あまり楽しくなかったですみたいな感想もありました。

やっぱり、ボランティアも楽しくないと続かないと思うのです。ですから、どういう形だと継続できるのか、こちらでも学生と話をしながら聞いていきたいと思います。

○佐藤会長 自由度というところでは、参加者が多過ぎると自由度設定も難しくなるので、今回ぐらいが割とコントロールしやすかったと思っています。多分、現場のほうでももう少し自由にやっていいよと言ったら、学生さんたちも、はっちゃけてとは言わないですけども、多分、自分たちの思うとおりにやっていたと思います。それも今後の検討事項としてやっていければと思いますが、事務局はいかがでしょうか。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） 今回、前回と大きく違ったところは、参加者の実績のところでもお伝えさせていただきましたけれども、低年齢児のお子さんがかなり少ないといえますか、5歳以下の子はゼロといったところもありました。

教育大の特別支援教育専攻プログラムの課程の皆様がふだんのライフワークとして行っている「みんなのあそびば」は、児童のご利用がすごく多いと思うのですけれども、そのあたりの方々少なく、今回は高齢者が結構多かったのです。

私も当日に見ていて思ったのは、理学療法士の柔軟運動といえますか、ストレッチを教えてほしくて来たという方々もいらっしゃいましたので、ターゲット層とのずれもあったのかもしれないと思いました。

デイサービスの方々が来られなかったり、運動会時期でもありましたので、このあたりも含めて、次回は土曜日の開催ですので、幅広くいろいろな年齢層の方に来ていただけるよう、広報、周知にも工夫してまいりたいと思います。

○佐藤会長 引き続き、よろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○近藤委員 今のところに関連して、ボランティアもそうですけれども、指導協なども含めて、マニュアルはいただいているのですが、改めて、目的の共有化をしっかりとする場面というか、もしかすると、参加している側も目的をすり合わせないままに進んでいるところもあるのかもしれないので、そういった機会をうまく設定しながら進めていけるといいなと思いました。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） イベントの開催前に全体ミーティングの時間を設けていただいているのですけれども、内容の伝わり方に濃淡があると思いますので、口頭だけではなく、ペーパーを配って見える化をして、改めて、本当にシンプルに、このイベントは何を目的にやっているのか、いま一度、皆さんにご説明をさせていただく場面は必要なのかなと思います。

皆さんで同じ目的意識を持って、同じ方向を見て取り組んでいけるように、全体統括といえますか、その指示をしていけるような形に変えていけたらというふうに思います。

○佐藤会長 ほかにいかがでしょうか。

○岡崎委員 議題には関わらないのですが、よろしいでしょうか。

実は、暫定拠点の会議がずっと続いていて、今年の3月に（仮称）障がい者スポーツセンター基本構想が出来上がってきて、4か月くらいがたっています。その基本方針の最後のところに、スポーツセンター整備に向けた検討と暫定拠点の今後の進め方のイメージがあって、それを見たときに、今、暫定拠点が（仮称）障がい者スポーツセンター建設に向けた後に出てきた話になっていて、基本方針の中には書かれているのですけれども、第7章の1の障がい者スポーツセンター整備までの取組については、ハード面については具体的な整備候補地の決定や、類似・関連施設との複合化等の検討課題の解決に一定程度の期間を要しますと書いています。

暫定拠点については、令和10年度の開設までにいろいろと決めていかなければいけないことがたくさんあると思いますが、一定の期間がかかるという（仮称）障がい者スポーツセンターについて、できれば進捗状況を毎回教えていただくか、もしくは、今後このような動きでスポーツセンター建設に向けてのスケジュールを組んでいきたいというような話も私たちとしては知りたいというか、特に私は知りたいのです。

暫定拠点の話はこれからだんだん煮詰まってくるので、話すことは少なくなると思うのですが、私たちの願いである（仮称）障がい者スポーツセンター建設というのはいつまでもなくなるわけではないわけで、特に、私どもの団体、身障者福祉センターでは、30年以上もこの建設を札幌市に要望しているわけで、今、やっという構想ができて、どう進んでいくのかが非常に気になっているのです。暫定拠点も気になってはいるのですが、そういった意味では、進捗状況も交えて次の会議から進めていただきたいというお願いです。

今日、何か答えてくださいということではなく、そういう情報を私たちも知りたいということをして札幌市のほうでも覚えておいていただいて、私たちに少し寄り添ってほしいというお願いです。

○佐藤会長 岡崎委員だけではなくて、多分、委員全員の願いだと思いますので、次回以降、その辺を盛り込んだものをぜひご提示いただければと思います。

○事務局（銭谷パラスポーツ振興担当係長） そもそも、こちらは（仮称）障がい者スポーツセンターの外部有識者検討会議となっておりますので、今、岡崎委員がおっしゃられたことは当然だと思います。

現在の検討状況を簡単にご説明させていただきますと、まずは基本構想の中で方向性を整理させていただき、暫定拠点を開設することになっておりますので、（仮称）障がい者スポーツセンターの実際の整備位置や機能、またはどうあるべきかといった検討につきましては、この基本構想をリリースさせていただいた時点から大きな進捗はないところでございます。

ただ、あくまでも最終的なゴールは、（仮称）障がい者スポーツセンターが開設されて、皆さんが気軽にスポーツや運動に取り組めることの実現だと思っております、おっしゃることももっともだと思いますので、今後は、議題といいますか、進捗状況の報告という形で皆様に共有できるように検討していきたいと思っております。

○佐藤会長 よろしくをお願いします。

最後に、全体を通して何かございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○佐藤会長 では、事務局にお返しいたします。

3. 閉 会

○事務局（中島企画担当係長） 本日は、多くのご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日いただいた意見につきましては、次回の検討会議において、改めて皆様にお諮りさせていただければと思います。

今回は3回目の検討会議になりますけれども、9月から10月にかけて開催を予定しております。詳細な日時は追ってご連絡させていただきますので、皆様には、ご多忙のところ、恐れ入りますけれども、ご出席をよろしくお願いいたします。

令和8年度第2回有識者検討会議を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

以 上